

令和5年度 第1回旭川市博物館協議会議事録

日 時：令和5年7月20日（木） 午後6時から午後7時20分まで

場 所：旭川市博物館 郷土学習室

出席委員：辻並委員・宮腰委員・南委員・石田委員・奥寺委員・川村委員・管野委員・坪坂委員・豊田委員
(以上, 9名)

会議の公開・非公開の別：公開

傍聴者の数：なし

(次 第)

1 開会

2 委嘱状交付

令和5年4月25日付けで新たに委員となった辻並委員に社会教育部長より委嘱状を交付した。

3 社会教育部長あいさつ

4 会長・副会長選出

会長であった江口委員が退任したため、委員の互選により会長は管野委員、副会長は辻並委員に決定した。

5 会長あいさつ

6 議事

(1) 令和4年度事業実績について

(2) 令和5年度事業計画について

(3) その他

7 閉会

【議事内容（要約）】

(1) 令和4年度事業実績について

事務局	資料の内容について説明
会長	皆意見や質問はあるか。 (意見等なし) では、私から質問だが、せっかく講座をやっているのに参加人数がもう少し多くならないものかなと思うが、旭川市民や小学生の関心度が低いのか。
A委員	小学校に勤めていて感じるのだが、子どもたちはまが玉などにすごく興味を持っていて、学校で博物館のイベントのチラシを受け取って、行ってみたいというが、博物館まで遠いので、子どもたちだけで行くことが難しく参加できないことがある。子ども+保護者の理解が必要なのかなと考えている。
事務局	資料に掲載している体験学習イベントは、夏休み冬休みなどに参加者を募集しているイベントである。職員の体制から、たくさんの人数は受け入れできず10人、20人といった定員で実施していて、定員いっぱい埋まっているものが多い。また博物館に来たいと思っても子どもだけでは来れなくて、参加できないこともあると思っている。 資料には記載していないが、学校の授業や行事で博物館を見学をして体験学習をしている児童生徒は多数いる。今度はこの点についても整理してお知らせするようにしたいと思う。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局	資料の内容について説明
会長	令和4年度の事業活動計画について、事業方針と事業体系を中心に説明いただいた。質問や意見等はあるか。
B委員	前にいた小学校で、アイヌ民族音楽会を活用したことがある。学校に来てもらって本物に触れるという体験をすることはすごく良い。アイヌ学習プログラムで博物館や川村カ子トアイヌ記念館を訪れてみたいと思う先生は年々増えている。学校も、子どもたちも、ちょっと閉塞感があったこの数年間だったが、その中で体験というものを重要視するようになってきていると感じている。 本物に触れに行きたいが、交通手段がない。アイヌ学習プログラムでバスが出るようになったのが画期的。努力して予算を確保して、バスの送迎をこれだけの校数していただいている。でも、多分市内小学校では肌感覚としては2、3倍の応募があるのではないかと思っている。 アイヌ民族音楽会は学校に来ていただけるのがすごく大きな魅力。資料の8ページの、兵村記念館で実施している「屯田兵のくらし」だが、送迎がないためか、10校募集して3校のみの参加である。参加している学校を見ても、旭川小学校、旭川中学校と目の前で歩いて行けるとところが2校。もう一校の新富小学校は11月8日にどうやっていったのだろうと思ってしまう。おそらく路線バスなどをうまく使いながら行ったのではないかと思うが、現実的に学校としては路線バスを使うのが一番安値である。子ども一人当たり200円ほどあれば往復できる。乗り継いでも倍くらいの値段。 バスをチャーターしてはと保護者の方からも言われるが、今はバスの値段がすごく上がっていて、ちょっと借りるだけでも4~6万円かかる。子どもたちの数が減ってきているので、1500円から2000円くらいの支出をご家庭に強いてしまうことになるので、躊躇してしまう。 路線バスを利用して博物館に来るのが難しい学校もある。やはりぜひとも予算を確保して一台でも二台でもバスを増やして、子どもたちが本物に触れられる機会を増やしてほしいと切に思う。
事務局	令和2年からアイヌ学習プログラムを実施しており、その対象となる学校はバス送迎している。アイヌ学習プログラムは国のアイヌ施策推進交付金の事業計画に盛り込んで、交付金を活用して実施している。 来年度以降については、国の予算もあるので、どうなるのかわからないというところが実情である。以前は、市費単独でバス送迎を行っていた時期もあったが、バスの予算が削られてきた経緯がある。 昨年度まではコロナの関係でバスの一台当たりの乗車人数を少なくして送迎していたが、今年度は元に戻せる見込みなので、バス送迎の対象校は少し増やせると思う。 もう少しバス送迎の予算を増額できないか、財政担当部局と話ししていきたいと思うが、なかなか実際は難しい。
会長	我々も何か側面的にできることがあったら、知恵を出したいと思っている。

(3) その他	
会 長	これまでの話全体を通しての中で、質疑の中で質問や意見はあるか。
C委員	資料の13ページの事業方針の上から3つ目、収蔵資料のデジタル化の推進、その他の情報発信、学習普及活動に活用するということが、今現在どの程度進んでいるか。 今小中学校で、一人一台アイパッドを使って学習している。さきほどほかの委員からも話があったが、直接体験する機会が非常に大事だが、なかなか交通手段がなくて博物館に行くことができないのでデジタル資料を提供していただくことで、学校の授業で活用する可能性があると思います、お聞きした。
事務局	収蔵資料のデジタル化を進めていかなければならないと考えているが、現状では学校にデジタルデータを提供することができるほどには進んでいない状況である。 近現代の資料について申し上げますと、写真を撮って、目録カードに添付するという作業はしてきているが、それは一方向からだけの写真、つまり正面からか上からか一枚だけである。子どもたちに物を見せようとするとき四方向から見せる必要があるが、そこまではできていないのが現状である。一方向から撮っている写真も資料が大量にあり、進んでいない。 昨年、一昨年くらいから社会科教育研究会の先生方と子どもたちが持っているアイパッドを活用して4方向から博物館資料を撮って授業で活用する方法を研究しようということが話題にはなっているが、先生方が業務多忙であったり、コロナで博物館から出て活動することが難しくなってしまう、実現していないのが実情である。先生方がよくご利用になる昔の道具など、テーマを絞ってやってみようということで話を進めているところである。 先生方には知恵を借りる場や道筋も少しずつできつつあるが、なかなかこちらがお応えできていない状況にある。また何かお知恵や博物館の資料の貸出を希望する事例などがあつたら、教えていただければお役に立てるのではないかと思いますので、よろしくお聞きしたい。
B委員	アイヌの神謡や舞踊などは動画資料で 유튜브 にあげていただいているが、そういうところもまだまだ現場で知られていないところだと思うので、我々も伝え広めていくことのお手伝いなどしていけたらと思う。 他の公共施設でいうと、浄水場、下水場はこのコロナ禍で見学が出来なかったというのを受けてバーチャル見学のような形で動画で見学ができるようなものを作製して学校に提供していただいた。教育現場では非常に有効に使わせていただいた。 博物館でも、バーチャル見学みたいなものを学芸員の皆さんの豊富な知識の解説付きで出来ないかと思う。静止画でもいいが、今の子どもたちは動画を日常的に見ているので、動画がよいと思っている。2、3分でも構わない。資料をいろんな角度から見るとあるが、例えば学芸員さんがやってみましたというような感じで実際に手回し洗濯機の動きを撮ってもらうと今の子どもたちはそういうのが大好きなので、良い反応を示してくれると思う。 彫刻美術館では巡回展示ということで、実際触っても良いと言われる彫刻を学校に持ってきてくれている。民間の運送会社をお願いして、持ってきてもらって、1か月くらい自由に触ってよいという展示である。それにプラス出前出張プログラムというものもある。学校に職員が来てくれて彫刻に触りながら授業をしてもらうというプログラムである。 デジタルもすごく良いが、アナログで収蔵資料を貸していただくのはとても良い。資料を取りに行くことは先生方もできなくはないが、持ってきていただくとうまくありがたい。 貸していただくというのは実際できるものか。
事務局	博物館の体験学習のプログラムでも昔の道具を使ってみようというものがあるが、学校から要望があつた場合、石臼、手回し洗濯機は台数があるのでお貸しすることができますよとお声がけしている。 個別の学校の話になるが、化学の先生で振り子の授業で使いたいとのことで、ネジ巻式の柱時計をお貸ししている。博物館で借りることができる先生は個別に借りてくださっているので、他の学校にももう少し広げていきたいと思っているところである。 博物館職員が出前授業をするというのは今のスタッフの配置では難しい。資料の貸出についてはいくつか条件が付くが、用意できるものはあるので御相談いただければと思っている。
会 長	色々な知恵やつながりがある。その他で何かあるか。
C委員	道内に住んでいる人に郷土に親しみをもらうことは博物館の使命としてあると思うが、北海道のアイヌ文化をはじめとした優れた文化は道外の人こそすごく興味関心を示すのではないかと思う。また、海外から来た人もきっと興味関心を示すのではないかと思う。 博物館内には英語表記の看板みたいなものはあるか。

事務局	<p>一部ある。長文の説明文もあり，その場合，日本語と英語とキャプションをつけると長くなるので，ダイジェストを一ヶ所つけている。</p> <p>また展示室内にある資料は英語やほかの外国語でご覧いただけるようQRコードを設置していて，携帯をかざして見ていただくよう案内している。</p> <p>なお，館内にフリーWi-Fiを整備している。</p> <p>今は携帯のアプリソフトなどで，カメラをかざすと翻訳が出てくるものなどもあるので，スマホをかざしてキャプションを読んでいらっしゃる方もお見受けする。</p>
	<終了>